

技普第 1046号
平成27年2月2日

各 位

北 海 道 農 政 部 長
(地独) 北海道立総合研究機構農業研究本部長

平成27年(第33回)農業新技術発表会の開催について
道内の農業試験場が開発した新品種や新技術を広く周知するため、次のとおり
農業新技術発表会を開催しますので、お知らせします。

なお、当日受付は大変混み合いますので、なるべく2月16日(月)までに出席
予定者をご連絡ください。

記

1 日時 平成27年2月19日(木) 10:00~16:00
(発表会 10:30~15:10)

2 場所 かでる2・7 1F かでるホール及び展示ホール
札幌市中央区北2条西7丁目

3 内容

(1) 発表会

- ①農業試験場が開発した新品種・新技術
- ②農業試験研究成果を活用した普及活動事例
- ③平成27年に特に注意を要する病害虫

(2) パネル展示

発表する新品種・新技術等を中心に道内の農業試験場が開発した新品種・
新技術や農業試験場の取組を紹介したパネル展示

連絡先：生産振興局技術普及課
普及推進G主査(普及情報)
電 話：011-204-5379
shigihara.hiroaki@pref.hokkaido.lg.jp

平成27年農業新技術発表会出席予定者報告

【報告期限】平成27年2月16日（月）

所属部署名	役職名	氏名

連絡先：北海道農政部生産振興局
技術普及課主査（普及情報）
電話：011-204-5379
FAX：011-232-1091
shigihara.hiroaki@pref.hokkaido.lg.jp

※ご提出いただいた個人情報につきましては、参加状況把握以外のためには使用いたしません。

平成27年農業新技術発表会課題概要一覧

部会名	課題名	発表タイトル	口頭発表	ポスター発表	機関名	セッション	成績の要約	
作物開発	大豆新品種候補「中育69号」	あの美味しいインズワール納豆が線虫に強くなつて新登場！「中育69号」	○	○	中央作物中央生工	納豆用小粒の垂糸品種「スズワールの選同質遺伝子系統。線虫抵抗性が同品種の弱型向け赤肉メロンを育成した。	納豆用小粒「スズワール」の選同質遺伝子系統。ダイズストセンチュウ抵抗性に優れる。その他の農業特性は「スズワール」とほぼ同じであり、納豆加工適性も同品種並に優れる。百粒重はやや軽いが実用上問題ない。上川中南部・十勝中央部・道央の「スズワール」全てに置き換えて2,400haに普及する。	
								「空知交23号」はえそ斑点病等、複数の重要病害に抵抗性を持ち、果実品質も優れている。接ぎ木不要で省力的であり、また、大幅な減農薬栽培も可能であることから、メロン産地の維持発展に貢献できる。特に、産地直売所や通販など、食味重視の販路を保有する生産者や産地が、安心して作付けができる品種である。
花野果	赤肉メロン新品種候補「空知交23号」	北海道におけるさつまいもの栽培特性	○	○	花野花野園(株)大野農園	えそ斑点病、つる割病(ウイルス、2)、うどんこ病に抵抗性を有し、食味の抑制作用向け赤肉メロンを育成した。	道南・道央地域において栽培適性の高い5品種を選定した。5月下旬～6月中旬定植。9月下旬～10月中旬収穫で府果並の収量・品質を確保できた。苗の定植方法や株間の組み合わせ等で規格別収量が削減できた収量および吸収収量は室来施肥量は5kg/10aとした。寒冷地に対応した貯蔵法を明らかにした。	
								北海道でもできる！美味しいさつまいものつくり方
								味はナッツ！タネを食べるべががぼちやのつくり方
畜産	黒毛和種去勢牛の育成期における牧草サイレージ給与技術	黒毛和種去勢牛の育成期における牧草サイレージ給与技術	○	○	畜試肉牛畜試支援	黒毛和種去勢牛の育成期において、乾草給与と豚色ない発育を示す、牧草サイレージの給与方法を確立した。	黒毛和種去勢牛の育成期において、乾草給与と豚色ない発育を示す、牧草サイレージの給与方法を確立した。	
								飼料自給率UP！黒毛和牛にサイレージ
								牛も喜ぶ！糖含量の高いオーチャードグラス「北海30号」
								子宮内膜炎の予防が繁殖成績を上げる近道
								根創地域における子モシージャケットの播種時期と凍結深別播種時期
								根創地域における子モシージャケットの播種時期と凍結深別播種時期
								根創地域における子モシージャケットの播種時期と凍結深別播種時期
根創地域における子モシージャケットの播種時期と凍結深別播種時期								
農業環境	秋まき小葉「ゆめちから」の新品質安定栽培法	秋まき小葉「ゆめちから」の新品質安定栽培法	○	○	中央農産中央地城上川地域土産部	加工適性に合致した「ゆめちから」の播種時期・播種量・室来施肥、成熟期予測法等の栽培体系を確立した。	越冬前期播種気温(道央・道北590℃、道東480℃)が確保できる時期を播種適期と定め、時期に応じた播種量を示した。標準施肥体系は道央4-9-0-6-0、道北4-6-6-0、道東4-8-0-6-0で、施肥ツールや葉色診断の活用で生産がより安定化する。また、有効積算気温から出穂期・成熟期が予測できる。	
								疎水材暗渠の排水機能回復手法
農業環境	疎水材暗渠の排水機能回復手法	この暗渠効いているの？チェックの手順と機能回復法	○	○	中央農産中央地城上川地域土産部	疎水材暗渠の排水機能を効果的に発現できる壁疎水材の暗渠の排水機能回復手法を確立した。		

部会	課題名	発表タイトル	口頭発表	ポスター発表	機関名	セールポイント	成績の要約
病害虫	有機栽培畑における生産力向上のための緑肥活用法	有機栽培畑の地力増進！緑肥の上手な活用法	○	○	中央農研	緑肥作付に伴う生産性向上効果を明らかにし、有機栽培への転換を前提とした緑肥導入モデルを提示した。	休閑・後作緑肥の作付は、熱水抽出性窒素などの生産性向上に有効で、その増加程度は残存有機窒素量と正の相関関係にあった。たい肥を施用することでその効果はさらに増大した。休閑・後作緑肥を2ヵ年作付することで土壌環境や後作物の収量性が向上したことから、有機栽培への転換を前提とした緑肥導入モデルを提示した。
	平成26年度の発生にかんがみ注意すべき病害虫	平成27年に特に注意を要する病害虫	◎	○	中央病虫 中央病虫 上川環境 道南環境 十勝環境 北見環境 花野環境 道枝管線 北農研 病害虫防除所	平成27年度に特に注意すべき病害虫を示し、防除指導上の参考となる。	平成26年度に問題となった病害虫のうち、①水稲の紋枯病および疑似紋枯病、②小麦のまぐさ黒穂病、③たまねぎのネギハモグリバエについて、次年度に特に注意すべき病害虫として解説する。また、道内で新たに発生した病害虫を紹介し発生を見逃さないように注意喚起する。
	薬剤抵抗性ネギアザミウマの発生実態と防除対策	抵抗性ネギアザミウマのあたらしい防ぎ方	○	○	中央病虫 道南環境	薬剤防除が困難であったビニール不刺抵抗性ネギアザミウマに対し、薬剤防除による被害軽減策が示された。	ビニール不刺抵抗性ネギアザミウマの省力的な遺伝子診断法である「マルチアザミウマPCR法」を開発し、この方法を用いて全道の広い範囲で薬剤抵抗性ネギアザミウマが発生していることを明らかにした。たまねぎ、ねぎ、キャベツにおいて本種に対して有効な薬剤を試し、ビニール不刺不使用の薬剤防除対策を提示した。
	斑点米カマムジの基幹防除期における減農薬防除技術	農薬を減らしも斑点米は増えません	○	○	中央病虫 道南環境	斑点米の基幹防除の運行2回と出穂7～10日後1回が同等の防除効果を示すため、減農薬化が可能である。	北海道の斑点米カマムジの基幹防除の2回のうち、1回目の出穂期防除を行わずとも、2回目の出穂7～10日後に効果的に1回を行うことで、今までの2回防除と同等の斑点米防除効果が得られる。そのため、本時期に、効果が高く残効性の長い薬剤で1回防除を行うことで、基幹防除の減農薬が可能となる。
	特別栽培のためのキャベツ病害虫の防除体系	キャベツの高度クリーン栽培技術	○	○	中央病虫	特別栽培のためのキャベツ病害虫防除体系について、慣行と同等の効果が得られる防除体系モデルを提示した。	露地キャベツ栽培の特別型における化学農薬の成分使用回数を慣行から半減する防除体系モデルを提示した。本モデルは軟腐病、株腐病、鱗翅目幼虫に対して慣行と同等の防除効果が認められ、収量に関しては慣行とほぼ同等の商品化率が得られた。半減防除体系モデルの農業費は慣行防除より約1割増加した。
	水田作・畑作経営の規模拡大による所得増大効果と経営安定対策の影響評価	水田作・畑作経営の大規模化と所得増大のポイント	○	○	中央生シ 十勝生シ	セブナス動向予測に基づいた水田作、畑作経営の規模拡大に向けた経営モデルと経営管理の留意事項を示した。	水田作経営、畑作経営の代表的類型ごとに大規模経営モデルを作成し、規模拡大(水田作:15ha→30ha、畑作:40→50ha→60→70ha)によって期待される所得増大効果と機械・労働力・作目等からみた経営の留意事項を示した。また現行の経営安定対策が主要な作物の収益性や農業所得に与える影響を評価した。
	牛乳生産費集計システムを用いた直接比較によるコスト改善対策	コスト削減！あなたの牛乳生産費を比べてみよう	○	○	根釧地域	牛乳生産費集計システムを活用して、農家集団内および経営間の直接比較等により牛乳生産費を見直す手順を実証した。	牛乳生産費集計システムを用いて農家集団の牛乳生産費データを計測し、そのばらつきと格差を農家集団内あるいは経営間で直接比較等を行うことが、牛乳生産費を見直す検討に有効であることを現地実証により明らかにした。その結果をふまえ、見直しの手順および分折用シートを策定した。
	YES!clean認証制度における表示の制約要因と活用方策	販売に活用しよう！クリーン農産物表示制度	○	○	中央生シ	流通実態調査に基づき小売段階でのYES!clean表示の制約要因を明らかにし、認証制度の活用方策を示した。	小売段階でYES!clean表示が行われない要因は、仲間での栽培法の異なる生産物が混ざること、記載内容確認の負担が大きいこと等である。一方で、産地の責任で商品・ベツクにYES!cleanマークを記載し、出荷段階でベツクする場合は、小売でもYES!clean表示が行われ、販売価格にも反映されやすい。
	乳用雌牛の集団哺育施設における寒冷対策	子牛を寒さから守ってすくすく育てよう	○	○	根釧地域 根釧乳牛	舎内温度と哺乳牛の増体の関係を明らかにし、保温と増給を組み合わせた施設と栄養の両面から寒冷対策を実証した。	寒期においてスランプ期のすきまを寒さ・休息場所上部をシートで覆うすきま風対策により、哺乳牛の体重増加量は高まる。このすきま風対策に加え、赤外線ヒーターを用いた保温対策と代用乳(CP24%、EBE20%)の増給(体重あたりの2.0%)により、21日齢までの体重増加量は10.7kgと向上する。
	携帯型NDVIセンサによる秋まき小まきしたほなみの生育診断	きたほなみの生育診断もこれで楽々、携帯型NDVIセンサ	○	○	北農研水田	きたほなみの栽培指針に基づき、越冬前及び越冬期から幼穂形成期までの茎数と栄養の両面から寒冷対策を評価し、推奨できる方法である。	安価な携帯型のNDVIセンサを用いた栽培指針に基づききたほなみの生育診断方法を提案する。本センサは、十分に作物が繁茂していない条件では、植被率が測定に影響し、植被率が幼穂形成期までの茎数と相関が高いことを利用し推定できる。

平成27年農業新技術発表会課題概要一覧

部会名	課題名	発表タイトル	口頭発表	ポスター発表	機関名	セーリポイント	成績の要約
普及	水稲と転作を組み合わせた4年輪作への挑戦	水稲と転作を組み合わせた4年輪作への挑戦	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	空知農業改良普及センター	水田地帯において、水稲転田直播栽培と転作物を組み合わせた輪作体系モデルを構築した。	普及推進事項等の現地実証・技術体系化を行い、販路を開拓することにより、地下かんがい、ほ場均平、水稲直播・無代播き栽培、及び子実用を含めたデントコーンや大豆等の畑作物による空知型輪作体系が広まり、水田地帯の生産確度が改善されている。
普及	北海道における農業気象災害技術資料集の活用	こんな災害にはどう対処すればいい!	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	上川農業改良普及センター	迅速な対応を求められる農業気象災害発生時において、現場指導の参考となる資料集である。	気象災害発生時の迅速かつ適切な技術対応を目的に、農業気象災害等調査データの収集及び整理を行い、北海道内の災害追跡調査データベース集458事例、災害技術対策310事例、各地区調査資料等7ファイル105事例を資料集としてとりまとめ、農業気象災害発生時に活用している。

